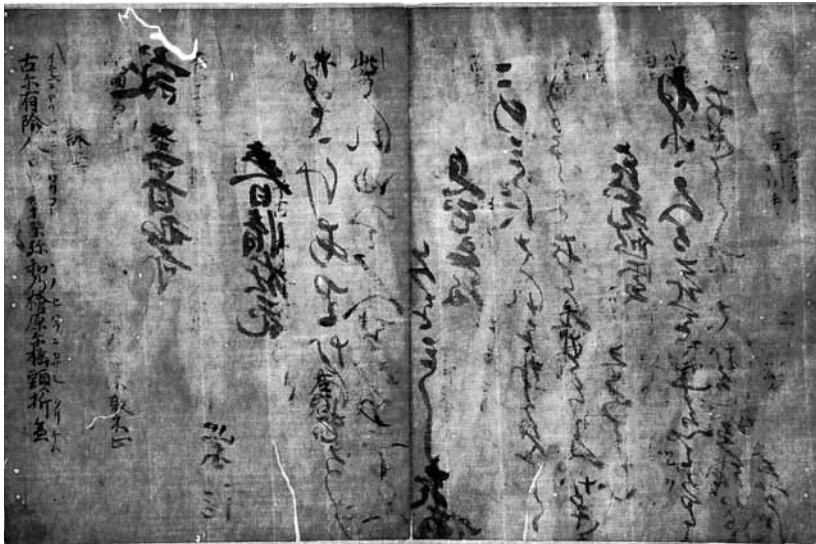


かす が かい し
春日懐紙

—失われた裏面を求めて—

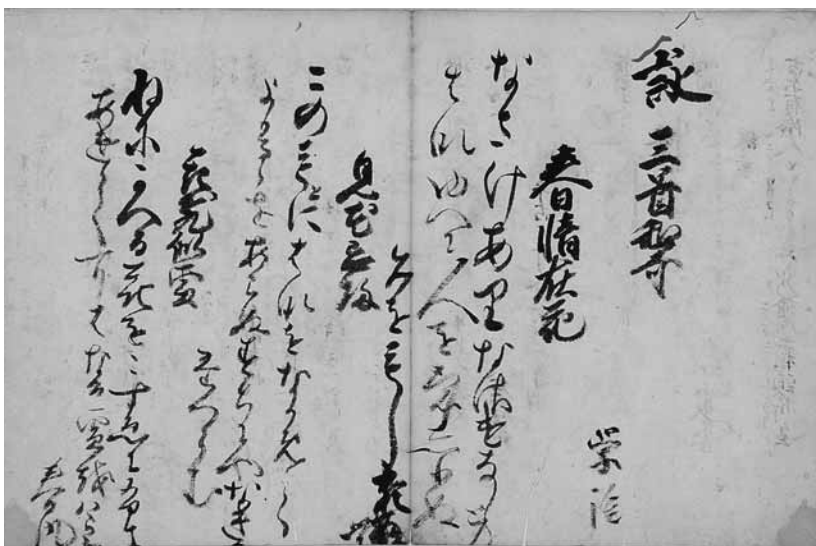


学詮「春情在花」反転写真（左隅が残存する万葉集）

当国文学研究資料館蔵の春日懐紙は全部で三一枚（そのうち、二十五枚は国指定重要文化財）。現在知られている春日懐紙の総数は一六〇枚。その約五分の一は当館蔵ということになります。春日懐紙は、茶の湯の席の掛け物としてたいへん珍重されますので、一枚ずつばらばらにあちらこちらで所蔵されている傾向が強く、これほどの量が公共機関にまとまって所蔵されている事例は稀です。春日懐紙の大きな特徴は、鎌倉時代の神官などの自筆の和歌資料の裏に、鎌倉時代書写の『万葉集』（春日本）が書写されていることです。図は、学詮という人の「春情在花」を第一歌題とする懐紙を、反転したものです。画像を反転することによって、裏面の『万葉集』が明らかになります。

詠葉

イニシヘニアリケムヒトセワカコト
古尔有険人母□□等架弥和乃檜原尔挿頭折兼



学詮「春情在花」

『万葉集』巻七の歌が鮮明に見えます。ところが、こんなにくっきり見えるのは、この懐紙裏でもこの一首だけなのです。残りは、紙を裏表二枚に剥ぐことによって（和紙は裏表に剥ぐことができるとは！）、万葉集面は失われてしまっています。実は、当館蔵の春日懐紙三一枚でも、これほど鮮明に残っている事例は他にありません。多くの万葉集の歌は、剥がされて、どこかに行ってしまったと考えられます。しかし、本来はすべての春日懐紙の裏に万葉集が写されていたはずですが、今、その失われた万葉集を復元する試みが行われています。肉眼では見えない、残された文字を赤外線カメラで確認するなど、わずかな痕跡から『万葉集』の位置を特定する方法により、八割方の春日懐紙の裏の特定はできています。それでも分からない場合もあります。当館の紙の専門家である青木睦准教授は、虫食い穴や焼けこげの位置から、万葉集の巻の特定をするというアプローチを行っています。古典籍に関する様々な専門家が集う当館の特色を生かし、失われた万葉集の探求が続けられています。（田中大士）